

◆司会

それでは、ただ今から本日の市長定例記者会見を始めさせていただきます。市長、よろしくお願いたします。

◆市長

はい。よろしくお願いたします。まず、新型コロナウイルス感染症への対応状況について申し上げますが、昨日1月27日は、静岡市内で330人の新型コロナウイルス感染症患者が確認されました。3日連続で陽性者が300人を超えた状態となっております。また、1月21日から昨日までの陽性者1,036人のうち30代までの方が696人と、およそ7割にあがっております。感染の急拡大は、重症者の増加につながります。また、病床がひっ迫すると医療機関の機能が低下し、保健所業務もままならなくなります。市民の皆さんには、より一層の感染防止対策を心掛けていただきますようお願いいたします。特に、ご家庭での家族の行動や体調管理の徹底をお願いいたします。このような状況を受けて、感染が拡大している10代、20代の若い市民の方々をターゲットとした集中対策事業として、昨日から啓発チラシと市長のメッセージを添えたマスクを市内の高校27校に配布しております。ご存じの通り、昨日、早速、静岡市立の2つの高校、清水桜が丘高校と静岡市立高校の代表の生徒さんに、オンラインで感染対策を呼びかけさせていただきました。2人からは、大変力強い発言があつてとても心強く思いました。学校全体で対策に取り組んでいきたいということでありましたので、期待したいと思えます。これを機会に高校生の皆さんが、感染予防のお手本となり、周囲にもつながる行動をとってくれることを期待しています。皆さんの行動がお年寄りや、また、接種を済ませていない小さなお子さまの安全を守るという自覚を持っていただけたらな、というふうに願っています。

また、ワクチンの接種についてですが、1月26日より3回目のワクチン接種の予約が開始されました。昨日までの2日間で、およそ6千人の皆さんが予約されました。現時点では、市で予約受付をしている枠に空きがあります。すぐに予約できる状況です。来週以降も接種券が順次発送されますので、今後は混雑する可能性もあります。接種券がお手元に届きましたらば、「待つよりも打つ」、お早目の予約、そして、接種をお願いいたします。冒頭、このことを申し上げました。よろしくお願いたします。

それでは本日の話題、「令和4年度2月補正予算の概要について」に移ります。2月定例会に提出する補正予算の規模は、一般会計が約90億2,600万円の増額、特別会計が約6億8,200万円の減額、企業会計が約10億4,700万円の減額、総額では約72億9,700万円の増額となりました。記者の皆さんには、既に財政局からレクを受けていると思えます。私からは、概略だけ補足かたがた、説明いたします。

今回の補正予算は、新型コロナウイルス感染症対策を中心に、令和4年度の当初予算に計上予定の事業を前倒しする、時機を逃さず対策に取り組むための予算を編成した結果、私が平成23年に市長に就任して以来、最大規模の予算となりました。コロナ対策を重視しております。その中でも一番重要なのがワクチンの接種事業です。昨日より、まん延防止等重点措置が静岡市にも適用されました。感染拡大に歯止めをかけ一刻も早く日常を取り戻すため、明日から開始する3回目のワクチン接種を加速するための予算を計上いたしました。引き続き1回目、2回目の接種も継続し、確実かつ可能な限り早期に実施してもらいます。

一方、3月からの開始が見込まれている5歳から11歳までのお子さんの接種にかかる予算も盛り込みました。これも準備を進めているところであります。さらに、アフターコロナを見据えてイベント開催の支援と消費拡大を一体的に実施することにより、まち全体の賑わいの回復、これを取り込んでいこうと思っています。具体的には、「まちは劇場TRY '22」と銘打ち、市内各地域で行われるイベントの開催と持続化を後押しするための奨励金を交付し、これと合わせて商店街などがクーポン券を配布する地域消費促進事業、この第三弾となりますが、これも展開してまいります。その中で、「まちは劇場TRY '22」と題したイベントと、商店街等の滞留性を高める取り組みとして、市内全域をスタンプラリー会場とした総額1億5千万円相当の豪華地場産品等が抽選で当たるキャンペーンも、5月から継続的に12月まで8か月間実施していく予定です。その他の主な取り組みは国との連携であります。保育、看護の現場で働く人への支援であります。エッセンシャルワーカーと言われる方々が、大変、最前線で頑張っておられます。コロナ禍における感染症への対応や少子高齢化への対応が重なる現場で働く看護師さん、保育士さんなどに対して下支えをしてまいりたいと思っています。看護師さんや保育士さんからの要望も数多く届いております。それにお応えするため2月より保育士等については収入の3%、月額9千円程度となりますが、看護師については収入の1%、月額4千円程度、給与の引き上げに取り組めるように必要な費用を支援してまいります。さらに今回の補正予算では、静岡市民文化会館の再整備にかかる基本設計のための債務負担行為を計上いたしました。これまで令和元年度から2年度にかけて実施したワークショップやアンケートなどでいただいた市民の皆さんのご意見も取り入れながら計画を作成してまいりました。現在の市民文化会館の良さを引き続き活かしつつ、足りない設備や今までこんな施設が欲しい、例えば、「女性用のトイレが少ない」という声を多くいただいております。「こういうものが欲しいな」「こういうものがあつたらいいな」、そういう設備を追加していくなど将来にわたって使いやすく愛される市民文化会館になる計画を作ったつもりであります。今後は民間事業者のノウハウを生かしながら、新しい時代の市民文化会館を整備し、令和8年度末の完成を目指してまいります。

その他、将来の備えとしての基金関係等を含め、予算額の累計は一般会計が約3,675億

円で特別会計と企業会計を合わせた総額では、約6,927億円となりました。既に報道として流れている情報もございますけれども、今日、市長から正式に、この2月補正予算のポイントをお話させていただきますので、どうぞご理解よろしくお願いたします。私からは以上です。

◆司会

それでは、ただ今の発表につきまして皆さまからのご質問をお受けいたします。いかがでしょうか。はい、NHKさん、お願いたします。

◆NHK

NHKです。まず、冒頭発言のあった3回目のワクチン接種予約ですけれども、2日間で6千人予約と、これは高いのか低いのか、こんなものなのかを伺いたいのですが、この時点の予約ができた人、接種券が届いている人の母数がどれぐらいで、そのうちの6千人なのか、というところから確認させていただけますか。

◆市長

高いのか低いのかということについて、私自身相対的な比較の数字を持ち合わせていませんけれども、私どもとすると、まずはなるべくいろんなチャンネルを生かして「待つよりも打つ」というPRを強化しているところであります。もし、そのあたりの数字が分かったら補足していただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

◆保健所統括監

保健所統括監の松田と申します。よろしくお願いたします。接種券自体は、今回2万3千人ほど送らせていただいておりますので、その中で、2日間で6千人弱というところですので、決して少ないということではないかとは思いますが。コールセンターにつきましても、相当数、コールセンターのほうに予約の入電が入っておりますし、ネットのほうのウェブ予約につきましても順調に入っております。ただ今年の1、2回目の接種、特に高齢者のときですね、集中的に接種、予約が入ったときに比べますと、やや落ち着いているかなというような印象がございます。以上でございます。

◆NHK

改めて市長に伺いますが、3回目接種については重症化予防の効果も当然あるとは思いますが、オミクロン株、ブレイクスルー感染多発しているじゃないか、という冷めた見方ですとか、今回の補正にも上がっている子どもへの接種について不安で慎重になっているお子さん本人、保護者さん、たくさんいらっしゃると思います。改めて、全国的にもワクチン3回目接種低調ということで、総理も危機感を持っているようです。

けれども、市長からそのあたり、市民に対するメッセージありましたらお願いします。

◆市長

そうですね。不安に思っている方が多いということは、私自身痛感しております。私たちは、とにかくこの受け皿を1回目、2回目の教訓も踏まえて、きちっと整えることによって受けたと思う方々が、スムーズに予約接種につながるように努力してまいります。

◆NHK

分かりました。続いて補正予算の中身ですけれども、まず90億円のうち半額以上を公共建築物の整備の積立金ということで、やはり施設を持つということは維持管理費がかかるということなのだと思えますけれども、田辺市長の政治姿勢をめぐっては、そちらの歴史文化施設もそうですし、市長が事業再開すると明言している海洋文化施設ですとか、取り組んでいくというスタジアム、アリーナと箱ものばかりじゃないかと、できた後のことをどう考えているのだと、実際、歴史博物館3億円ランニングコスト赤字だそうじゃないかと、こういう厳しい意見も市議会からも市民からも出ているわけですけれども、箱もの中心の市政という印象を結果的に与えていることについて、市長、何か説明はどうされるのかお聞かせください。

◆市長

今、3期目の途中の任期をしておりますけれども、やっぱりその中では、私はむしろ箱ものができなかったという繰り返しでありました。就任直後、そのとき2次総から、すでに歴史文化施設は引き継いでおりましたけれども、3・11の直後でありましたので、それどころではなかった。防災の対策をしなければなりませんでしたし、また、箱ものの代わりに極めて厳しかった財政の立て直しもしなければいけないので、子育て支援に力を入れてまいりました。ですので、1期目の4年間、目立った成果がなかったというふうな指摘も受けたぐらいであります。その問題意識の中で、「よし、これからはきちっと、まちみがきをしていくぞ」という目標のもとに、市民の皆さんの要望も聞きつつ、3次総合計画を確立し、議会の皆さんとの議論の中で、その中での最優先事業として5大構想ということをもとめあげたわけです。その中には、拠点、拠点の大型投資事業を組み込んでおります。そして、その公共投資が1つの呼び水になって、さらなる民間投資を喚起していく、そして、地域経済の好循環を作っていくという流れで3次総を推進しました。ところが、コロナ禍の直撃によって事業が、一部、一時中断せざるを得ない、大型投資よりもコロナ対策だろうというところに舵を切りました。しかしながら、3次総のやるべき事業の締め切りは令和4年度です。ですので、令和4年度中に100%とはいかないけれども、やはり計画で、議会でも議決した事業は、

やはり推進しないと、ということから歴史文化施設や海洋文化施設をスタートして
いこうという判断になったわけであります。ですので、今だけを見るのではなくて、
もう少し線で、スパンで報道していただければ全体の流れ、決して箱ものばかりという
印象ではないということが、ご理解いただけるものと思います。

◆NHK

今、報道していただければとおっしゃいましたが、報道のせいで箱もの行政だという
誤解を与えているという認識でいらっしゃいますか。

◆市長

そんなことおっしゃっていません。質問が、箱ものばかりの印象があるとおっしゃった
ものですからね、そういう言い方をして曲解しないでいただきたいと思います。

◆NHK

分かりました。また、おいおい伺います。それと、地域経済活性化でイベント関連の
事業が並んでいますけれども、新たなイベントをひらく事業者に70万円ですか、奨励
金を出すということなど並んでいますけれども、ちょっと予算編成の流れもあったので
しょうが、結果的に、この第6波の最中でイベントを前面に打ち出す予算発表になる
ことに、市民の中には疑問を持たれるかもしれませんが、そのあたり、どうしてこう
いった事業を並べたのか、改めてお考えをお聞かせいただけますでしょうか。

◆市長

市民の前に、記者さん自身が疑問に思っているということですか。

◆NHK

どう説明されるのかなと思っています。

◆市長

そうしたらお答えいたします。先ほども申し上げた、限られた文章だったので、ご理解
いただけなかったのかと思いますけれども、今は“いのち”を守る取組に、最優先で
あります。しかし、それだけではなくて、その先々のことも考えていかなければいけな
い、地域経済の回復ということで今から準備していくという二段構えの発想が必要だ
ということでもありますので、よろしく願いいたします。

◆NHK

分かりました。ありがとうございます。

◆司会

その他いかが…、朝日テレビさんお願いいたします。

◆静岡朝日テレビ

朝日テレビです。よろしくお願いします。ワクチン接種ですけど、全国的な傾向としてモデルナ社製のワクチンを敬遠する方が多い。副反応が強めに出るとか1、2回目がファイザーだったからだとか、いろいろ理由はあるようなのですが、そのせいで集団接種の予約が伸びないというような傾向があるようなのですが、その点について、何か対策は考えていらっしゃいますか。

◆市長

私どもは、ファイザー社製はかかりつけのお医者さんというように仕分けしながらやっております。待つよりも打てと、タイミングを待つよりも打てというメッセージもファイザーを待つのではなくて、モデルナも有効であるから、ぜひ打ってほしいというメッセージであります。本人の希望でありますので、それを強制するわけではありませぬけれども、しかし、いろんな情報が錯綜する中でどうしてもそういうイメージがついてしまったという印象はぬぐえません。ただし、いろんな学術の論文が発表されていますし、むしろ種類を変えてワクチンを打つということも効果があるということも実証されているというふうには報告を受けています。ですので、ぜひ、ちょっと、このあたりは保健所長から、少し専門的に市民の安心や、「そんなことないよ」「敬遠することないよ」ということについて、専門家の立場でお伝えさせていただきますので、ぜひ、そんなことを報道していただければ、ありがたいなというふうに思います。

◆保健所長

少し補足させていただきます。今、市長からもわりと詳しい説明があったと思うのですが、やはり交接種も含めて、現在、私どもで用意しております2つのワクチンについては、メリット、デメリット総合的に判断いたしまして、同等ということで私ども、国の方針に従いまして、現在、3回目のワクチン接種を進めさせていただいているという状況でございます。それが今、市長からもお話しがあった「待つよりも打つ」と、そこで、あれこれいろいろと悩むよりは、やはり現在の、この打てる環境をとにかく最大限に活用していただいて、速やかに接種していくということが、今は大切なのではないかと思います。それとあと、先ほど少しブレイクスルーの話もありましたので、補足させていただきますと、残念ながらこのオミクロン株も含めて現在100%の完全な感染予防する方法というのは、別に、ワクチンも含めまして、ございません。やはり、大切なことは確実に感染を防げる様々な対策を積み重ねること、これは、私ども公衆

衛生的な観点からリダクションというかたちで呼んでいるのですけれども、やはり100%の対策がない以上、例えば50%感染が防げるという措置を、これを積み重ねるって、これ、足し算じゃないのです、かけ算なんですね。ですから、例えば半分にする措置を4段階重ねていただきますと、これは $1/2 \times 1/2 \times 1/2 \times 1/2$ ということで計算していただくと分かるのですが、約1割以下に、この感染リスクを抑え込むことができる。ですから、その足し算も総合的に、例えば、マスクをきちんと鼻マスクにならないように、マスクフィットをちゃんとしてくださいとか、手洗いしてくださいとか、そういった確実にエビデンスのある感染予防策に重ねて、やはりブレイクスルーは起きているのですけれども、これ、やはり抗体価は間違いなく3回目で上がりますので、感染予防、100%は防げないのですが、確実にその予防効果はあります。そして、重症化予防効果もあると、ですから、今言ったように、3回目のワクチンを打つことで、今言った重ね合わせの効果が必ず出ますので、やはりそういったことを、これは「100じゃないからだめなんだ」ではなくて、その感染リスクを下げる効果があるということを重ね合わせる、一つの大きな手段になるということで、現在、早期の接種を進めているということで、さらに、その上に重症化予防についても効果があるということなので、医療ひっ迫の程度を抑えていくこともできると、ですから、3回目を急いでいます。ぜひ、その点についても、私ども引き続き、広報を続けていきたいと考えます。よろしくお願いたします。

◆静岡朝日テレビ

ありがとうございました。

◆司会

その他いかがでしょうか。先に日経新聞さん、お願いします。

◆日経新聞

日経新聞です。今回、財政調整基金に25億積み増して、基金の残高見込みが合併後初めて100億を超えるということになるのですが、コロナ対策をめぐっては、一時期、やっぱり財調を取り崩して、残高が1億になるまで減ったということもございまして、今回、積み増しの意義について、改めて、ご説明いただいてもよろしいでしょうか。

◆市長

本当にぎりぎりの財政運営を強いられているのはおっしゃる通りであります。しかし、今は使うタイミングだと思います。国においても財政論争繰り広げられておりますよね。積極財政を今こそという考え方と、やはり財政規律というものをしっかり堅持しなければ将来に禍根が残るという考え方、いわゆる上げ潮派と規律派という論争があります。

私は、今は国と強く連動して、コロナ対策をはじめ市民の安心安全を守る予算というものは、きちっと積極的に予算付けをするという立場をとって、やっていきます。いったん財調も底をつきましたが、財政当局の努力により、そのあたり上手にやりくりして、今は一定の水準まで回復しております。ただ、これから第6波のせいで、どんなことがあるか分かりません。そのときについて、私はこういう心構えで臨機応変な財政運営をしていきたいというふうに思っております。

◆日経新聞

ありがとうございます。基金についてなのですけど、今回また新たに50億の公共事業にかかる基金を創設されました。他の自治体でもやっていらっしゃるような例だとは思いますが、やはり今後、施設の老朽化などが市内全体で進んでいくと思われま。基金創設で、市民にどのようなサービスを提供していきたいか、改めて、お考え、お聞かせください。

◆市長

これも先ほどの質問とセットでありますね。やはりアセットマネジメントを着実に実行するということは、持続可能な市政運営をするとき、不可欠な要素であります。そこをきちっと市民の皆さんにお伝えしながら、例えば、市民文化会館も新しい時代に、ふさわしい建て替えをするというオプションもありましたけども、ここのところは、改修にとどめていこうと、アセットマネジメントも意識しながら全体のバランスもとりながら、このような形になりました。ご理解いただきつつ、サステイナブルな市政運営に意識を強く持っていきたいというふうに思っています。それにしても大変ですよ。財政局長が大変苦勞されています。あと、アセットは企画局の所管、財調はじめ財政の所管は財政局、この2局が車の両輪となって風通しよく、アクセルとブレーキをかけていかなければいけないと思っていますので、そのところ、2つの局が従来以上に緊密に連携をとって間違いのない財政運営、市民のサービスは下支えして、きちっとコロナ禍の中でやりつつ、将来の財政の健全性というものを保っていくという、この難しい両立を議論して保っていく、そんな指示を私からしています。

◆日経新聞

ありがとうございます。

◆司会

その他いかがでしょうか。静岡新聞さん、先にお願ひします。

◆静岡新聞

静岡新聞です。先ほどの朝日テレビさんの質問に関連ですが、ワクチンのモデルナ、ファイザーですが、先ほどの6千人の予約で、例えばファイザーのほうが、顕著に予約が多いというか、集団接種会場がモデルナの接種会場が少ないとか、その辺の数字的なものとか、明確なサインみたいなものが、もし分かれば教えてください。

◆市長

今日の時点ですよ。分かりますか。

◆保健所統括監

保健所統括監の松田です。昨日までの時点になります。約総数で5,500ほど予約が入っていますが、その中で比率としましては9割がファイザーで、残りの1割弱がモデルナというかたちになります。また、そもそもそのファイザーとモデルナの比率もファイザーのほうが6割、モデルナのほうが4割というところで、母数としては個別接種中心のファイザーのほうが数は多いですが、まず、そのファイザーのほうから埋まりつつあるという状況は事実でございます。

◆静岡新聞

ありがとうございました。

◆司会

その他いかがでしょうか。第一テレビさん、お願いします。

◆静岡第一テレビ

静岡第一テレビです。お願いいたします。高校生のマスクの配布についてお伺いしたいのですが、これ事業費というのはどれぐらいの費用、予算というのかかっているものなのでしょうか。

◆市長

この高校生の啓発事業だけの予算ですね。

◆静岡第一テレビ

はい。分かりますか。

◆市長

これ分かりますか。啓発事業全体で予算計上しておりますので、そののところ、どうだ

ろう。

◆危機管理統括監

危機管理統括監の梶山でございます。事業費については、当初から予定していたものではございませんので所管している予算の中でやりくりしているということ、印刷費とマスク自体の代金ということで1万9,000円くらいの費用をかけているのですけれども、今、細かい事業費については、資料を持ち合わせておりませんけれども、職員の頑張りど、そういったなるべくお金をかけない中で時間的にもかけない中で取り組んだということで、それほど大きな予算として使ってはおりません。

◆静岡第一テレビ

ありがとうございます。これ、今、健康上の理由などでそういうのがなくて、マスクをしていないという人は、なかなか少ないとは思いますが、どういふねらいがあつてマスクを配布されたのか、また、市長のメッセージ動画の再生回数、まだ言いつらいのですが、私が見た段階では60回くらいで、本当にその若い人に届く発信ができていふのかな、というところが疑問なのですが、そのあたりを教えてくださいませんか。

◆市長

3つのメッセージですね。その1つが、「ノーマスクはだめだよ」ということでありましたので、その啓発品として1枚ではありますけれども、マスクを今回、チラシだけでは、なかなか一人ひとりに届かないかもしれませんのでね、職員が議論して、マスクを付けるということになっています。鼻マスクなんて言い方がよくありますけれども、これもきちつと不織布のマスクを着けるということが大事になってきていることが分かっています。ですので、昔は布製のマスクとか、オリジナルの違つた素材のマスクを使つていた方も不織布のマスクを使うという流れができておりますので、今回、私も不織布のマスクを、ひとつ着けて正しく着用してください、ということも伝えてくださいね、ということをお願いしています。

◆司会

その他、発表案件につまましていかが…、読売新聞さん、お願いいたします。

◆読売新聞

読売新聞です。先ほどのNHKさんの質問に少し関連するかもしれませんが、凍結中のものも含めたいくつかの大型事業について、市長は昨年の12月でしたか、定例会で反転攻勢の年に新年度はしたい、というふうにおつしゃっていました。そのときは、

コロナもかなり落ち着いていたのですが、今また増えてきて、これからまたやっぱりコロナ対策費もかなり予算がかかると思うのですけれども、その反転攻勢に向けた決意というのは、今も変わっていらっしやらないというふうに考えてよろしいでしょうか。

◆市長

もちろん決意は、おっしゃる通り変わっておりません。しかしながら、このオミクロン株の現状の中で一生懸命拡大を抑え込むということ、これは全国レベルでやっていくわけですけれども、その行く末ということを見定めたいというふうな臨機応変な対応をしなければいけないというふうに理解しております。

◆読売新聞

では状況によっては臨機応変に変わることもあるという。

◆市長

ただ、とにかく備えはしておかなければいけませんので、2月議会には、その決意を示す予算を上程するつもりです。

◆読売新聞

分かりました。

◆司会

その他いかがでしょうか。発表案件につきましては、では以上ということで。続きまして幹事社質問をお願いいたします。中日新聞さん、お願いいたします。

◆中日新聞

中日新聞です。コロナ禍、ウィズコロナと言われて間もなく2年になりますけれども、静岡市の職員の働き方で、分散勤務だったりデジタル化、オンラインのZoom だったりとか、どのような変化や実績が現時点で残せた、または今後さらにこうしていきたいというのはございますでしょうか。

◆市長

おそらく御社も同じだろうというふうに思いますけれども、やはり、このコロナ禍になって、デジタルというものの効率性というものは実感しております。市役所においてもオンラインでの会議や在宅勤務も行う。その職員は確実に、そして、急激に増えております。例えば、会議に関しては、職員同士の会議においてもテレビ会議やウェブ会議を積極的に活用しています。今、オミクロンですので、同じオフィスの中においても

別々の部屋からリモートでつなぐ会議の方式をとっております。しかし、一方、このようリモート、便利ですけれども対面に勝るものはないということ、私は実感しているのですが、いかがでしょうか。やはり対面で会話がつながるところで議論することが熱を帯びるというか、そういったところも、今まで当たり前だったわけですが、そのことの価値というものも気づけていますので、バランスだろうというふうに思っています。ですが、このコロナ禍で気がついたこと、デジタル技術を最大限活用して、今までできなかったことができるようになったというメリットは、とても大きなものがあるかと思っておりますので、このような技術を使ってオンライン化等々、例えば、今まで役所に行っていた手続きがリモートでできる、ということにも応用していくということで計画も作りましたので、職員同士の恩恵ではなくて、その積み重ねを市民の公共サービスの恩恵につなげていくということが、やっぱり行政組織でのデジタルの着地点になるのだろうかというふうに思っております。

◆中日新聞

母数によるのでなんとも言えないと思っておりますけれども、会議の何割がオンラインでやるようになったとか、そういう数字はあるのでしょうか。

◆市長

今の肌感は、もう8割ですね。私の関係はね。でもどうだろう、客観的に数字として分かりますか。総務局長。

◆中日新聞

人それぞれにもよると。

◆市長

人それぞれですよ。だいたい御社どのぐらいですか。

◆中日新聞

何がですか。

◆市長

社内の会議等々。

◆中日新聞

会議というのはあまりないのですけれど、ここでこうしゃべるものでもないと思っておりますけど、例えば、各社だいたい社内だとLINE WORKSとかTeamsという。

◆市長

記者自身がだいたい今どのぐらいで。

◆中日新聞

会議っていうものが、そもそもあまりこの職業ないので。

◆市長

ないんですか。

◆中日新聞

直接その上司とのやり取りぐらいだったりしますね。LINE上でやったりという感じ
です。

◆市長

あんまり対面でというのは。

◆中日新聞

対面でやることも、もちろんありますよ。

◆市長

でも、新聞社なんて、私のイメージでは、やっぱりね、口角泡を飛ばしてね、どんなふうに見出しつけるんだとか、やり合うというようなイメージありますけれど、全然、
変わってきていますかね。

◆中日新聞

うちだと本社が浜松なので、ちょっとそこまで毎日行っていられないので。

◆市長

ちょっと時間を使っていましたけれども。

◆総務局長

すいません。総務局長の渡辺と申します。この件数ですね。リモート会議どれぐらい
やっているかという件数については、持ち合わせは実はありません。ただ、この全庁的
な会議、あるいは局内の会議、もっといいますと小さなグループごとの会議もリモート
会議をやっていますし、私なんかのスケジュールでも1日5件程度はリモートによる

会議というものを実施しているような状況です。そのような中で、システムを活用したテレビ会議システムというのがございますが、これの実績ということでは数字がございますので、令和3年度9月末までに、そのシステムを使ったテレビ会議システムを使った会議が、延べ167回、1,112人の職員が、これを利用しているというような、そのような数字のほうは持ち合わせておりますのでご紹介しておきます。以上です。

◆中日新聞

いつからR3の9月までなんですか。

◆総務局長

R3の4月1日からですけれども、3年度の9月末まで、今のような数字の回数の利用をしているというような状況です。

◆中日新聞

ありがとうございます。この前の災害対策本部会議、拝聴させていただいて感じたのですけれども、いまだに「音声聞き取りづらい」とか、「マイクが入ってない」とか、結構、初歩的なマイクの不具合だったり、結構、自分も聞いていて感じたんですけども、そのあたりいかがでしょうか。

◆市長

そうですね。改善をしていかなきゃいけないと思っております。

◆中日新聞

ありがとうございます。

◆司会

その他、幹事社質問に関連したご質問いかがでしょうか。テレビ静岡さん、お願いいたします。

◆テレビ静岡

テレビ静岡です。すいません、新型コロナ関連という意味で質問してもよろしいでしょうか。政府が新型コロナの濃厚接触者について、自宅等での待期期間を10日から7日に変えるような検討に入ったということなんですけれども、まず、静岡市としての受け止めを、まずお聞かせ願いたいのと、その理由として様々な機関で事業の維持が、濃厚接触者が増大して難しくなっているという理由が挙げられていると思うのですが、静岡市でも3日間連続300人を感染者発生して、濃厚接触者もそれに準じて増えている

と思うのですが、具体的に、市とか市長のほうに、そうした業務の維持が難しくなっているよみたいな声というのは、きているのでしょうか。

◆市長

質問を2問いただいたような受け止めなんですけど、最初の質問、もう一度お願いします。

◆テレビ静岡

濃厚接触者の待期期間を10日から7日に短縮する検討に政府が入ったという話があると思いますが、これへの受け止めをお願いします。

◆市長

そうですね。ぜひその議論、加速化してほしいなというふうに思っています。濃厚接触者が、急激に増えていて。しかし、オミクロン株の特性で無症状のピンピンしている方も多いということで、その捕捉とマネジメントで非常に今、現場が忙しくなっております。昨日、高校と連絡をしたのですけれども、一見普通の高校生、健康そうな高校生も濃厚接触者ということで、その範囲の中での行動制約をされると、ものすごく多くなってしまっている。授業自体が非常に難しくなっているという実態もあります。これは静岡市だけでなく、小池都知事も同じようなことを記者会見でお話しをされていまして。ですから、全国各地の自治体の現場の実態というものが、今の国での議論につながっていると思いますので、ぜひ加速化してほしいなというふうに思います。その中で、この前、16回の本部会議のときにも、保健所長からベストパターンとワーストパターンと、これから変わっていくというような話がありました。ベストパターンになればいいんですけれども、そのときに、やはり2種から5種への切り替えということも視野に入れていただきたいなと私自身は願っております。

◆テレビ静岡

教育以外の市内の事業所とかで、具体的に市や市長に現状の待期期間、濃厚接触者がたくさん出て、現状では事業の継続が難しいな、といった具体的な話というのは、入っていたりするのでしょうか。

◆市長

先ほど紹介した通りなんです。

◆テレビ静岡

それにとどまると。

◆市長

そうですね。

◆テレビ静岡

分かりました。

◆司会

それではその他のご質問、45分を、目途の45分を過ぎておりますので、あればお受けしたいと思いますが、毎日新聞さん、お願いいたします。

◆毎日新聞

毎日新聞です。リニアの問題でリニア静岡工区の工事に関して、流域の10市町は、現時点では工事は認められないということで一致したということなのですが、静岡市の考え方とは異なると思いますが、市長はどう受け止めますでしょうか。

◆市長

大井川流域の皆さんは、やっぱり水の問題が最大の関心事ですので、その思いというものは理解をします。また、実際にいろいろお話を聞いてみると、自治体の位置によっても多少のニュアンスの違いもあるようです。いずれにしても「対立せず調和する」ということで、どう環境と経済を国レベルで、地方レベルで調和させていくのかと、その合意の形成に向けて、それぞれのステークホルダーが努力をしていただきたいということを願っております。

◆毎日新聞

今後、県とJRの協議が重要性を増すと思いますが、県とJR双方に、静岡市として今後の協議として望むことありますでしょうか。

◆市長

お互い歩み寄る姿勢というのが一番大事だろうと思いますので、コロナ禍の中、対面で話すのが一番いいだろうけれども、難しいのかもしれないけれどもね。お互いの立場を理解したうえで歩み寄るということ、で、県がそのコーディネーターをしていたくということが大事なんだろうというふうに思っています。

◆毎日新聞

先日の大井川の利水協議会の中では、ルート変更にも言及する意見ありましたが、市長

としてはルート変更についてはどんなふうに考えていますでしょうか。

◆市長

これは今後の議論の推移を見守りたいと思います。

◆毎日新聞

分かりました。

◆司会

それでは、定刻の 45 分を過ぎておりますので本日の会見はここで終了をさせていただきますと…

◆市長

どうぞ、どうぞ。

◆中日新聞

はい。

◆司会

皆さん、いかがですか、最後の 1 問よろしいですか。

◆市長

そうか、そうか、皆さん。

◆司会

よろしいですか。では、1 問お願いいたします。

◆中日新聞

3月の供用開始が、高橋雨水ポンプ場の関連で、昨日の上下水道局の会見で、3月の供用開始が遅れる見込みになると発表がありました。市長として、そのこと、住民サービスのポンプ場の供用が遅れるということに対して、受け止めをお願いします。

◆市長

昨日の会見の報告は、きちっと受けております。公営企業管理者が水道局の責任者として、お詫びを申し上げたということではありますが、その公営企業管理者を任命したのは私でありますので、私自身も市民の皆さんには、今回のことについて、大変申し訳

なく思っております。

◆中日新聞

市民は、一応、組織上トップは管理者っていうことですがけれども、市民はやっぱり、市長が一番上だと思っている方が多いと思うんですけども、そういう責任の面だったり、教訓としてどんなこと伝えたいというか、ございますでしょうか。

◆市長

そうですね。公営企業管理者に徹底的に検証して、自浄作用を促してほしいというふう
に指示を出しております。やっぱり先ほどのオンラインで、まだまだ稚拙なところがあるというご指摘もいただきましたけれども、やっぱり場数をこなしていく、やっぱり人間に失敗や粗相というのはつきものですよ。今回も私が、管理者として、そのあたりのところは遺憾に思っておりますけれども、しかし、それを活かして禍を転じて福と為すと、もっともっとコンプライアンス精神を職員一人ひとりが徹底できるような、水道局に生まれ変わるという可能性にも期待をして、今後の取り組みをしていきたいと思
います。そのためには一回、今回は、徹底的にどうしてこういうことになってしまったのか、記事で鋭くご指摘していただいたということをおある意味、今後への激励と受け止めて、私自身はリーダーシップを発揮していきたいと思っております。

◆中日新聞

対職員というより、今回、3月が遅れるということで対市民に対して、それこそ禍転じて
というか、禍用に作る施設なわけですがけれども、改めて市民の皆様、住民の方々に
どういう…

◆市長

先ほどの質問と同じだというふうに思いますけれども、申し訳なく思っております。

◆中日新聞

いつごろまでに目指したいというのは、市長としてはございますか。

◆市長

やっぱり、3月、4月ぐらいまでには、遅れても1カ月ぐらいに、とどめてほしい
ということは指示をしておるところです。

◆中日新聞

ありがとうございます。

◆司会

それでは以上で終了させていただきますが、ここで訂正をすいません、させていただきます。先ほど2月補正予算案の説明の最後に、市長のほうから予算額の累計のところ、一般会計が約3,675億円とお話しをさせていただいたのですが、正しくは3,722億円となります。それから、一般会計と特別会計、企業会計合わせた総額もそれに伴いまして6,927、6,927億円と申し上げましたが、6,974億円になりますので、訂正させていただきます。申し訳ありませんでした。それでは、以上で本日の会見を終了させていただきます。ありがとうございました。